



東京アマデウス合唱団

第33回定期演奏会

Heinrich Schütz のタバ

*Geistliche Chormusik
Musikalische Exequien*

Tokyo Amadeus Chorus

同仁キリスト教会礼拝堂

2014年11月3日



本日はお忙しい中をご来場賜り、厚くお礼申し上げます。

今回はハインリヒ・シュッツの曲から、ドイツ埋葬ミサの形式による曲「ムジカリッシェ・エクゼクイエン」をメインとし、教会合唱曲集からア・カペラの数曲を加え演奏することと致しました。

お忙しい中をこの合唱団のためにわざわざご来場頂き、温かいご支援を下さる皆様方に励まされ、この演奏会を開催できることを大変嬉しく思っております。

音響効果の良いこの礼拝堂で、シュッツの名曲の響きをお楽しみ頂ける様な演奏が出来ましたら幸いです。

東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 哲

28年間一緒に歌ってきたアルトの宮崎米子さんが、今年の1月末に急逝されました。今回の曲は、昨年暮れから宮崎さんもご一緒に歌ってきた曲ですので、きっと天国からご一緒に歌って頂けるのではないかと思います。謹んでご冥福をお祈りします。

PROGRAM

ハインリヒ・シュッツの夕べ

Heinrich Schütz(1585~1672)

Geistliche Chormusik Op.11

教会合唱曲集 作品 11 より(ア・カペラ)

Die mit Tränen säen(SWV378).....(S1.S2.A.T.B)

涙と共に種をまく者達は

So fahr ich hin zu Jesu Christ(SWV379)(S1.S2.A.T.B)

そのように私はイエス・キリストの許へ往き

Herzlich lieb hab ich dich,o Herr(SWV387)(S1.S2.A.T1.T2.B)

心からあなたを愛します、おお主よ

Das ist je gewißlich wahr(SWV388)(S1.S2.A.T1.T2.B)

それは確かに真実で

Selig sind die Toten(SWV391)(S1.S2.A.T1.T2.B)

幸いな死者

休 憩

Musikalische Exequien Op.7

音楽による葬儀 作品 7 (伴奏 オルガン = 水野克彦, チェロ = 伊藤恵以子)

I. Concert in Form einer teutschen Begräbnis - Missa(SWV279)

ドイツの埋葬ミサの形式によるコンチェルト

Nacket bin ich von Mutterleibe kommen ... (S1.S2.A.T1.T2.B)

私は母の体から裸で生まれた

II. Motette (SWV280)

モテット

Herr,wenn ich nur dich habe(S1.A1.T1.B1)(S2.A2.T2.B2)

主よ、もし私があなたのみを所有するならば

III. Canticum Simeonis(SWV281)

シメオンの頌歌

Herr,nun lässest du deinen Diener... (A1.A2.T1.T2.B1)(S1.S2.B2)

主よ、今あなたはあなたのしもべを

(選曲 辻村順子)

PROFILE

指揮・オルガン 水野克彦



東京藝術大学卒業。
ピアノを滝崎鎮代子、
クラリネットを千葉国夫、
室内楽を細野孝興の各氏に師事。
オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏
に受ける。
藝大バッハ・カンタータクラブに
在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。
日本オルガニスト協会会員。

チェロ 伊藤恵以子



東京藝術大学卒業。
同大学院博士課程修了。
チェロを三木敬之、レーヌ・フラショー、
倉田澄子の各氏に師事。
パリ・エコールノルマルで学ぶ。
第48回日本音楽コンクール入選。
Ensemble Deliceのメンバー。
訳書に「ポール・トルトゥリエ、チェリ
ストの自画像」「メニューインとの対
話」等がある。

近年の思い

皆様は御自分の死について考えることがありますか。こんな質問をするとすぐにでも、何を縁起でもないとお叱りをいただきそうですね。たしかに、私たちの社会には死をタブー視する風潮があるかもしれません。しかも医療が発達したおかげで日本人(の女性)は世界一の長寿に達していますから、若い人などは、自分の死を漠然とした遠い将来の出来事としか想像できないでしょうね。

でも、たとえ高度な医療によって重い病気から救われても、あたりまえですが死はいつか必ず訪れます。それに、現実が高齢化社会を迎えてみると必ずしも蔷薇色の日々ではなくて、介護問題や独居老人の問題など、むしろ多くの困難に直面する私たちなのです。

もはやこうなると、医療の目的は救命であるなどと単純な言い方で済ましているわけにいかなくて、そもそも人の生命とは何か、生命を救うとはどんなことかと根本から考えねばならなくなります。たぶん生命とは肉体や精神、それに感情をも含めた人格的な統合体なのかもしれません。

そして本当は、私たちは皆、心の中で生と死について真剣に考えようとしていると思うのです。だから近頃では終活の勧めや生前葬などが話題になっていますね。たしかに、死後のさまざまな後始末などをあらかじめ決めておくことは周囲の人への優しい配慮になるし、自らの人生を納得して締め括れる賢い方法だと思います。

友人フォン・ロイス伯爵

前置きが長くなりました。本題に入ります。今から約380年前、やはり終活を考えた人物がおりました。ハインリヒ・ポストフームス・フォン・ロイスという人です。彼はドイツ・テューリンゲン地方にあるゲーラという地の領主でした。大層な賢公であったそうで、学校を創立して学問芸術を奨励したり、産業を振興したりと、善政を敷いて領土を治めておりました。

やがてフォン・ロイス伯爵は自分の死期が近いことを悟って葬儀の段取りを決めておくことにしたのですが、そこで彼は素敵な思いつきをしました。自分が入る棺に聖書の御言葉とコラル(讚美歌)の歌詞を彫り刻むのです! そして彫り込んだこれらの歌詞で葬送音楽を作らせ、自分の葬儀に演奏してもらおうというわけです! そのために彼は聖書からの聖句とコラルの歌詞—それらは、この世のはかなさや死者の浄福、来るべき復活の望みなどを語っている—を選びました。伯爵は敬虔なルター派キリスト教徒だったのです。

そして伯爵は年来の友人であったハインリヒ・シュッツに作曲を依頼しました。音楽の教養が深い伯爵は、ドレーズデンの宮廷楽長として活躍していたシュッツの音楽に心酔して、親交を持つようになったのです。当時、優秀な音楽家を召し抱えたり援助したりすることは貴族のステータス・シンボルでした。それに

フォン・ロイス伯のゲーラはドレースデンに近く、さらにシュッツの生地ケストリッツがゲーラの領地であったので、シュッツは地理的、心情的にも伯爵との縁を感じていたでしょう。

そこでシュッツは心をこめて一生懸命に作曲したので、伯爵が亡くなる直前に曲は完成しました。それで幸いにも伯爵は自らの耳でこの名曲を聴いてみる事ができました。まるで生前葬をやっているようですね...というお話が本当であったらすこぶる面白いのですが、まことに残念なことに、どうやらこれは逸話のようです。真相は闇の中であります。しかし、とにかくシュッツは依頼された仕事を果たし、完成した葬送音楽に「Musikalische Exequien Op. 7＝音楽による葬儀 作品7」という題を与えました。Exequienは「葬送」という意味のラテン語です。そして1635年に伯爵の葬儀で演奏されたことは確かです。

「音楽による葬儀 作品7」の解説

さて、考えてみると伯爵の依頼はずいぶん難しい注文です。選ばれた詞句は、どれも聖なる信仰の光を放っていて伯爵の敬虔な人柄が偲ばれますが、これらをまとめた音楽作品に仕立て上げようにも、如何せん、詞句に脈絡がありません。シュッツはどのような方法でこの難しい注文に応えたのでしょうか。作品を調べてみましょう。

全曲は三つの楽章で構成されています。そして第一楽章は聖句とコラールの歌詞を交互に配置しているのが特徴的です。シュッツは、聖句をソリストのアンサンブルに、コラールを合唱に歌わせました。この配置方法をシュッツが考え出したのか伯爵の指示なのかは分かりませんが効果は絶大です。コラールが聖句の意味を敷衍して信仰的な応答をする役割を担い、それによって曲に推進力を与えることができるからです。長大な第一楽章(全曲のほとんど70パーセントを占めている)に秩序が与えられるのです。さらにまたシュッツは第一楽章を二つの部分に分けました。そしてそれぞれにミサ曲のキリエとグローリアの体裁を与えて、第一楽章全体には「ドイツ埋葬式ミサの形式によるコンチェルト」という名称を与えました。

第二楽章は追悼説教の後に演奏される「主よ、もし私があなたのみを所有するならば」という題名のモテットです。二重合唱の技法を使って神への信頼を確信に満ちた調子で歌いあげます。シュッツは若かりし頃、ヴェネツィア(水の都ヴェニス)に留学して、当地のサン・マルコ大聖堂で壮麗に鳴り響いていた二重合唱の技法を修得したのでした。

第三楽章は「シメオンの頌歌」です。この楽章は、いよいよ棺を墓に納めるときに歌われます。救世主を見るまでは死なないと聖霊に告げられていたシメオン老人が神殿で幼いイエスに会うことができ、これで安らかに世を去れますと神を誉め歌ったという記事が新約聖書ルカによる福音書にあります。シュッツは作曲にあたり、シメオンの頌歌には含まれない詞句「幸いな死者である、主に

あつて死ぬ者は…」を導入して三声の小アンサンブルに歌わせました。この三声は死者の霊と、これを天国へ導く二人の天使なのです。天国を目指す御一行様がシメオンの頌歌に重ねる歌声は何と甘美な響きでしょう。

シュッツが生きた時代

ところで、1618年から1648年にかけてヨーロッパで大きな戦争がありました。三十年戦争です。この戦争を抜きにしてシュッツの生涯を語ることはできません。諸侯がカトリックとプロテスタントの陣営に分かれて戦った最後の宗教戦争であり、ヨーロッパ諸国を巻き込んだ最初の世界大戦でもあったこの戦争で、ドイツ全土が戦禍を被りました。一説によるとドイツの人口が半減したといわれています。

当然、領主たちはこの戦争に莫大な金を費やさざるを得なくなり、経済も疲弊しました。戦争は必ず文化を破壊します。シュッツが仕えたドレーズデン宮廷も例外ではなく、軍事費を捻出するために宮廷楽団の予算が大幅に削られました。そのためにシュッツは音楽活動が満足にできなくなってしまいました。人生で最も充実した仕事ができるはずの壮年期を戦争で台無しにされたのです。

「音楽による葬儀」は、このような状況で作られました。楽譜の序文でシュッツは戦時下の事情を慮ったのか、編成を6人の歌手およびオルガンと控えめに指定しています。しかし、それにもかかわらず、歌のパートに器楽を重ねた大掛かりな編成での演奏が想定されていることは様式上からも確実です。シュッツがこのように豪華な曲を作る気になったのは、何と言っても作曲の注文が個人的な、それも親しい友人からの依頼であったからでしょう。

(このあたりで皆様とシュッツ様にお詫びを申し上げねばなりません。先に「音楽による葬儀」の第一楽章はソリストのアンサンブルと合唱で歌われ、その効果は絶大であると説明いたしました。でも私たちの演奏会では全曲を合唱で歌い通すことにしました。ですから絶大な効果は...無くなってしまいます。色々と言ひ訳はあるのですが...すみません、アマチュアの我が儘だと思って、どうかお赦し下さい)

友人シャインと「教会合唱曲集 作品 11」

話はかわりますが、シュッツにはヨーハン・ヘルマン・シャインという一つ年下の友人がいました。この人は少年時代にドレーズデンの宮廷聖歌隊で音楽教育を受け、長じてライプツィヒ市音楽監督兼トーマス・カントル（聖トーマス教会聖歌隊指揮者）になりました。この職はドイツの音楽界でも最も重要な地位の一つとされていて、一世紀後にはあの大バッハも就任しています。それからもシャインが素晴らしい音楽家であったということが判るでしょう。

しかし彼の生涯は幸福ではありませんでした。妻がお産で亡くなり、授かった子供5人のうち4人をも幼くして亡くす悲しみを味わいました。病弱であった彼自身も多くの病に苦しめられた末に、1630年44歳で死去しました。シュッツはお互いの音楽を理解し合える友人を失って、さぞかし悲しみ落胆したことでしょう。彼は、薄幸な友のために葬送曲「Das ist je gewißlich wahr=それは確かに真実で」を作曲して捧げました。

やがて時は過ぎて悲惨な三十年戦争がようやく終結した1648年、シュッツは一つの重要な曲集を発表しました。「Geistliche Chormusik Op. 11=教会合唱曲集 作品11」です。全29曲からなるこの曲集を彼は自信の作をもって編みました。そのさい、18年前に友人シャインに捧げたあの葬送曲「それは確かに真実で」も、この曲集に収録したのです。そして全曲をライプツィヒ市議会に献呈し、その献辞で、惜しまれて亡くなったトーマス・カントル、思い出深いシャインの業績を讃えるのを忘れませんでした。今日の演奏会では「教会合唱曲集」から、シャインへ捧げた曲も含め、死や永遠の生命を歌う曲を5曲選んでプログラムの前半に置きました。後半に演奏する「音楽による葬儀」と響き合えばと願っています。

シュッツ音楽の特徴

「教会合唱曲集」を発表したのち、シュッツはさらに24年も生き長らえて、その間「イエス・キリスト降誕物語」「十字架上の七つの言葉」3曲の受難曲「ドイツ語によるマニーフィカト」などの大作を生み出し、1672年に87歳で永眠しました。

ところで、シュッツが生まれたのは1585年です。そしてちょうど100年後の1685年に、音楽の父といわれる大バッハが誕生します。バッハとシュッツは、音楽的には無論のこと、精神的、地域文化的にも太い絆で結ばれていますが、二人の最大の共通点は何と言っても、言葉と音楽を見事に一体化する天才的な音楽性です。作曲家ならば誰しもが、歌詞の抑揚を損なわずに旋律を付けることに細心の注意を払うものですが、バッハとシュッツではそれが徹底しているのです。

ことにシュッツにおいては、曲から歌詞を消し去ると、残った音楽はまったく体をなさない無意味な脱け殻と化してしまいます。音楽の質が劣っているというわけではありません。音楽として存在する意味が無くなるということです。ですから突き詰めると、歌詞=ドイツ語を母語とする者か、それに準ずる能力がなければシュッツの作品を満足に歌うことは難しいということになります。

そしてもう一つの共通点はルター派教会の信仰です。バッハもシュッツも敬虔な信仰者でした。バッハについては、彼の創作意欲のみなもとを世俗的理由に帰そうとする学説が唱えられたこともあります。つまりバッハは礼拝音楽を不承不承に作っていたのだし、本当は宮廷で世俗的な音楽活動を華々しく繰り広げたいと願っていたということです。しかしそう決めつけるのは間違いであるということ

が資料研究から裏付けられています。バッハは心からの信仰心をもって教会音楽を作曲したのです。

最近の思い

さて、現代に生きる私たちにとって、宗教はずいぶんと縁遠くなっているのではないのでしょうか。宗教を人生の土台にして生きること、そのことに価値観を見いだす人が多いとは言えないような気がします。そんな現代人の目でバッハやシュッツの教会音楽を評価しようとする、ひょっとしたら作品に籠められた彼等の宗教的感動をすくい取り損なってしまうかもしれません。断定的な物言いをしてはなりませんが、キリスト教の信仰をもってとまでは言わないにしてもキリスト教に共感する心をもって彼等の教会音楽を理解すべきだとは言えないのでしょうか。

これに関連して思い当たるのは、日本のキリスト教徒の数です。その数はカトリックとプロテスタントを合わせても日本国総人口の1パーセントほどだそうです。つまりこの国におけるキリスト教徒はきわめて少数派であり、ほとんどの日本人はキリスト教と無縁だということです。そして少数派でさらに思い付くのは日本のクラシック音楽愛好者数。こちらは総人口の5パーセント前後らしいです（今日、演奏会に来てくださった皆様はこの数に含まれるのです！）。さあ、このような数字を突きつけられ、言語の問題なども提起されると、けっこう悲観的になりませんか。何にですって？ シュッツの教会音楽が日本でどれだけ理解され、受け入れられるかということにです。

ためしに本屋のクラシック音楽書棚の前に行ってみてください。なるべく大きな店がいいですよ。さて、どんな音楽家の伝記が並べられていましたか？ ベートーヴェンとモーツァルトは沢山そろっていますね。日本人はベートーヴェンもモーツァルトも大好きだもの。あとショパンもけっこうありますよ。ではバッハは？ エッ、ありましたか、思ったよりも多く。それはよかった、音楽の父が無視されていたら泣いちゃうところでした。ところでシュッツは見当たりました?? アア、ない？ そうでしょ。種明かしをすると、日本語で読めるシュッツの本は今のところ皆無です。実は以前に1冊だけ出ていたのですが、その本はもう絶版になって久しいです。ですから私がこうして捻り出した駄文でさえも、シュッツの紹介として、なにがしかの役に立つかもしれません。

もっとも私、音楽会のプログラム解説廃止論者なんです。だって皆さんは興味があれば何だって積極的に調べになるでしょ？ インターネットだって使えるし。逆に興味もない人に、こんなに長くて詰まらない作文を読んで下さいって言ったって、2、3行読んでハイ、サヨナラってなるのが落ちですよ…あれっ、私、とつてもぞんざいな口調になってしまっていました。すみません、これ以上の失礼は皆様に申し訳ないので、この辺りで消えさせていただきます。

Die mit Tränen säen SWV 378

Die mit Tränen säen,
werden mit Freuden ernten.
Sie gehen hin und weinen
und tragen edlen Samen
und kommen mit Freuden
und bringen ihre Garben.

涙と共に種を蒔く者たちは SWV 378

涙と共に種を蒔く者たちは
喜びと共に収穫するであろう。
彼らはさまよい出て涙を流すが、
よい種を携えて
喜びと共に戻り、
収穫の束を持ち帰る。

旧約聖書詩編 126 : 5,6 節

So fahr ich hin zu Jesu Christ SWV 379

So fahr ich hin zu Jesu Christ,
mein Arm tu ich ausstrecken,
so schlaf ich ein und ruhe fein,
kein Mensch kann mich aufwecken,
denn Jesus Christus, Gottes Sohn,
der wird die Himmelstür auftun,
mich führen zum ewigen Leben.

そのように私はイエス・キリストの許へ行き SWV379

そのように私はイエス・キリストの許へ行き、
腕を伸ばします。
そのように眠りについて静かに休むので、
誰も私の目を覚ますことはできません。
なぜならイエス・キリスト、神の子である
彼が天の扉を開いて、
私を永遠の命へと導くでしょうから。

Wenn mein Stündlein vorhanden ist = もし私にまだ時があつて 第5節

<第5節は 1575 年に無名人が付け加えたものである>

Nikolaus Herman = ニコラウス・ヘルマン 1560年

Herzlich lieb hab ich dich, o Herr SWV 387

Aria

1.

Herzlich lieb hab ich dich, o Herr,
ich bitt, wollst sein von mir nicht fern
mit deiner Hülff und Gnade,
die ganz Welt nicht erfreuet mich,
nach Himml und Erden frag ich nicht,
wenn ich dich nur kann haben.
Und wenn mir gleich mein Herz zerbricht,
so bist du doch mein Zuversicht,

心からあなたを愛します、おお主よ SWV 387

アリア

1.

心からあなたを愛します、おお主よ、
私は願います、あなたが私から遠く離れずに
助けと慈悲をくださるように。
全世界も私を喜ばせませんし、
天も地も私は求めません、
私があなたのみを所有することができるならば、
たとえ私の心が砕けても、
それでもあなたは私の確信、

mein Teil und meines Herzens Trost,
der mich durch sein Blut hat erlöst.
Herr Jesu Christ,
mein Gott und Herr, mein Gott und Herr,
in Schanden laß mich nimmermehr.

2.

Es ist ja, Herr, dein Geschenk und Gab,
mein Leib, Seel, und alls, was ich hab
in diesem amen Leben,
damit ichs brauch zum Lobe dein,
zu Nutz und Dienst des Nächsten mein,
wollst mir dein Gnade geben.
Behüt mich, Herr, vor falscher Lehr,
des Satans Mord und Lügen wehr,
in allem Kreuz erhalte mich,
auf daß ichs trag geduldiglich.
Herr Jesu Christ,
mein Herr und Gott, mein Herr und Gott,
tröst mich in meiner Todesnot.

3.

Ach Herr, laß dein liebe Englein
am letzten End die Seele mein
in Abrahams Schoß tragen,
den Leib in sein'm Schlafkammerlein,
gar sanft ohn einig Qual und Pein
ruhn bis am jüngsten Tage.
Alsdann vom Tod erwecke mich,
daß meine Augen sehen dich
in aller Freud, o Gottessohn,
mein Heiland und Genadenthron.
Herr Jesu Christ,
erhöre mich, erhöre mich,
ich will dich preisen ewiglich.

私が受け継ぐ賜物、私の心の慰め。
彼はその血潮によって私を解放してくださった。
主イエス・キリストよ、
我が神にして主よ、我が神にして主よ、
恥のうちに私を決して晒しておかないでください。

2.

そうです、主よ、あなたの贈り物と賜物は、
我が肉体、魂、そして全て私が
この貧しい人生で持っているものです。
それゆえ私はそれを使ってあなたを賛美します。
我が隣人に役立つため、奉仕するために
あなたの恩寵を私に与えてください。
私をお守りください、主よ、偽りの教えから。
悪魔の殺戮と虚偽を阻止し、
あらゆる苦難の際に私を支えてください。
私がそれを我慢強く耐えるように。
主イエス・キリストよ、
我が主にして神よ、我が主にして神よ、
我が死の苦しみのときに私をお慰めください。

3.

ああ主よ、あなたの愛する天使に、
終わりに臨む我が魂を
アブラハムの懐へ運ばせ、
肉体を彼の寝室で、
まこと穏やかに少しの苦痛も苦悩もなく
最後の審判の日まで憩わせてください。
それから死から私を目覚めさせてください、
我が眼があなたを見るために、
全き喜びのうちに。おお、神の子、
我が救い主、恩寵の玉座よ。
主イエス・キリストよ、
我が願いを聞きたまえ、聞き届けたまえ、
私はあなたをどこしえに賛美しましょう。

Herzlich lieb hab ich dich, o Herr=心からあなたを愛します、おお主よ
Martin Schalling=マルティン・シャリング 1569年

Das ist je gewißlich wahr SWV 388

Das ist je gewißlich wahr
und ein teuer wertos Wort,
daß Christus Jesus kommen
ist in die Welt,
die Sünder selig zu machen,
unter welchen ich der fühmehmste bin.
Aber darum ist mir
Barmherzigkeit widerfahren,
auf daß an mir
fühmehmlich Jesus Christus
erzeigete alle Geduld
zum Exempel denen,
die an ihn glauben sollen
zum ewigen Leben.
Gott, dem ewigen Könige,
dem Unvergänglichon
und Unsichtbaren und allein Weisen
sei Ehre und Preis in Ewigkeit,
Amen.

Selig sind die Toten SWV 391

Selig sind die Toten,
die in dem Herren sterben,
von nun an.
Ja, der Geist spricht:
Sie ruhen von ihrer Arbeit,
und ihre Werke folgen ihnen nach.

それは確かに真実で SWV 388

それは確かに真実で
価値ある貴重な言葉である、
「キリスト・イエスが
この世に来られたのは
罪人を祝福するためである」という言葉は、
罪人の中でも私は重罪人であるのに。
しかしそれにもかかわらず私が
慈悲に浴したのは、
私によって、
貴くもイエス・キリストが
全き忍耐を彼らに
手本としてお示しになるためであった、
イエスを信じて
永遠の命を得ようとする彼らに。
神、永遠の王、
不滅であり
不可視にして全き賢者に
栄光と誉れが永遠にありますように、
アーメン。

新約聖書テモテへの手紙一：15-17

幸いな死者 SWV 391

幸いな死者、
それは主にあつて死ぬ者、
今からのちに。
そうだ、霊は語る。
「彼らはその労苦からのがれて休み、
その成果で彼らは報われる。」

新約聖書ヨハネの黙示録 14：13

I. Concert in Form

einer teutschen Begräbnis-Missa

I. ドイツの埋葬ミサの形式によるコンチェルト

1. Intonatio: Tenor I

Nacket bin ich von Mutterleibe kommen,

1. 先唱 (テノールI)

私は母の体から裸で生まれた。

2. Soli: Tenor I/II, Baß

nacket werde ich wiederum dahinfahren.

Der Herr hat's gegeben,

der Herr hat's genommen,

der Name des Herren sei gelobet!

2. 重唱 (テノールI/II、バス)

私はふたたび裸で死ぬであろう。

主は与え、

主は取られた。

主の御名は誉められよ。

旧約聖書 ヨブ記1:21

3. Capella

Herr Gott, Vater im Himmel,

erbarm dich über uns!

3. 合唱

天の主なる神にして御父よ、

我らを憐れみたまえ。

Kyrie eleison=主よ、憐れみたまえ

4. Soli: Sopran I/II, Tenor I

Christus ist mein Leben,

Sterben ist mein Gewinn.

Siehe, das ist Gottes Lamm,

das der Welt Sünde trägt!

4. 重唱 (ソプラノI/II、テノールI)

キリストは私の命、

死は私にとって益である。

見よ、神の子羊、

世の罪を担うお方。

新約聖書 ヨハネによる福音書1:29b

5. Capella

Jesu Christe, Gottes Sohn,

erbarm dich über uns!

5. 合唱

イエス・キリスト、神の子よ、

我らを憐れみたまえ。

Christe eleison=キリストよ、憐れみたまえ

6. Soli : Alt, Baß

Leben wir,
so leben wir dem Herren;
Sterben wir,
so sterben wir dem Herren.
Darum: wir leben oder sterben,
so sind wir des Herren.

6. 重唱 (アルト、バス)

我らが生きるのであれば、
それは主のために生きるのである。
我らが死ぬのであれば、
それは主のために死ぬのである。
ゆえに我らは生きていても死んでいても、
主のものなのである。

新約聖書 ローマの信徒への手紙 14 : 8

7. Capella

Herr Gott, Heiliger Geist,
erbarm dich über uns!

7. 合唱

主なる神、聖霊よ、
我らを憐れみたまえ。

Kyrie eleison=主よ、憐れみたまえ

8. Intonatio : Tenor I

Also hat Gott die Welt geliebt,
daß er seinen eingebornen Sohn gab,

8. 先唱 (テノール I)

神は世を愛された、
その御一人子を与えられたほどに。

9. Soli : Sopran I/II, Alt, Tenor I/II, Baß

auf daß alle, die an ihn gläuben,
nicht verloren werden,
sondern das ewige Leben haben.

9. 重唱 (ソプラノ I/II、アルト、テノール I/II、バス)

それは、彼を信ずる者すべてが
失われずに、
永遠の命を所有するためである。

新約聖書 ヨハネによる福音書 3 : 16

10. Capella

Er sprach zu seinem lieben Sohn:
Die Zeit ist hie zu erbarmen;
fahr hin, meins Herzens werte Kron
und sei das Heil der Armen
und hilf ihn' aus der Sünden Not,
erwürg für sie den bittern Tod
und laß sie mit dir leben.

10. 合唱

彼はその愛する息子に言われました。
憐れみの時は今である、
行きなさい、私の心の大切な冠よ。
そして貧しい人の救いとなり、
罪の苦しみから彼らを救い、
彼らのために惨い死を扼殺し、
そして彼らをあなたと共に生かしめよ。

Nun freut euch, lieben Christen gmein=いまぞ喜べ、汝らキリストのともがらよ 第5節

Martin Luther=マルティン・ルター 1523年

11. Soli : Sopran II, Tenor II
Das Blut Jesu Christi, des Sohnes Gottes,
machet uns rein von allen Sünden.

11. 重唱 (ソプラノ II、テノール II)
神の子であるイエス・キリストの血が
全ての罪から我らを浄めてくださる。

新約聖書 ヨハネの手紙 I 1 : 7b

12. Capella
Durch ihn ist uns vergeben die Sünd,
geschenkt das Leben.
Im Himmel solln wir haben,
o Gott, wie große Gaben!

12. 合唱
彼によって私たちは罪を赦され、
命を贈られました。
天で私たちは、
おお神よ、なんと大きな賜物を得るでしょうか。

Nun laßt uns Gott dem Herren=いざ、主なる神に感謝を捧げん 第 6 節
Ludwig Helmbold=ルートヴィヒ・ヘルムボルト 1575 年

13. Soli : Sopran I, Baß
Unser Wandel ist im Himmel,
von dannen wir auch warten
des Heilandes Jesu Christi, des Herren,
welcher unsern nichtigen Leib verklären wird,
daß er ähnlich werde seinem verklärten Leibe.

13. 重唱 (ソプラノ I、バス)
我らの生きる道は天にあり、
そこから我らもまた
救い主イエス・キリストを待ち望む。
イエスは我らのつまらない肉体を変えて、
変容した御自身の体に似たものとしてくださるであろう。

新約聖書 フィリピの信徒への手紙 3 : 20、21a

14. Capella
Es ist allhier ein Jammertal,
Angst, Not und Trübsal überall;
des Bleibens ist ein kleine Zeit,
voller Mühseligkeit,
und wer's bedenkt, ist immer im Streit.

14. 合唱
ここは涙の谷、
不安、窮乏、そして苦難は、いたるところにあります。
この世の宿りは、ほんのつかの間ですが、
その間にも多くの苦労があって、
この世の宿りを思う者は、争いに明け暮れているのです。

Ich hab mein Sach Gott heimgestellt=われわがことを神に委ね 第 3 節
Johann Leon=ヨーハン・レオン 1582/89 年

15. Soli: Tenor I/II

Wenn eure Sünde gleich blutrot wäre,
soll sie doch schneeweiß werden,
wenn sie gleich ist wie rosinfarb,
soll sie doch wie Wolle werden.

15. 重唱 (テノールI/II)

たとえお前らの罪が血のように赤くとも、
雪のように白くされ、
罪がバラの色のものであっても、
羊毛のようにされるであろう。

旧約聖書 イザヤ書 1 : 18b

16. Capella

Sein Wort, sein Tauf, sein Nachtmahl
dient wider allen Unfall;
der Heilige Geist im Glauben
lehrt uns darauf vertrauen.

16. 合唱

その御言葉、その洗礼、その晩餐は
全ての禍事に対抗するのに役立ちます。
聖霊は、信仰にあって
それらに信頼するよう、私たちに教えます。

Nun laßt uns Gott dem Herren=いざ、主なる神に感謝を捧げん 第5節

Ludwig Helmbold=ルートヴィヒ・ヘルムボルト 1575年

17. Solus: Alt

Gehe hin, mein Volk, in eine Kammer
und schließ die Tür nach dir zu!
Verbirge dich einen kleinen Augenblick,
bis der Zorn vorübergehe.

17. 独唱 (アルト)

行け、私の民よ、部屋の中へ。
そしてお前が入った後に戸に鍵を掛けよ。
ひと時のあいだ隠れよ、
怒りが通り過ぎるまで。

旧約聖書 イザヤ書 26 : 20

18. Soli: Sopran I/II, Baß

Der Gerechten Seelen sind in Gottes Hand,
und keine Qual rühret sie an:
Für den Unverständigen werden sie angesehen,
als stürben sie,
und ihr Abschied wird für eine Pein gerechnet,
und ihr Hinfahren für Verderben;
aber sie sind in Frieden.

18. 重唱 (ソプラノI/II、バス)

正しい人々の魂は神の御手の内にあり、
どんな苦痛も彼らに及ぶことはない。
愚かな者には思われる、
彼ら(正しい人々の魂)は死んでいると。
そして彼らの別離は苦痛と見なされ、
彼らの死去は滅びと見なされる。
しかし彼らは平安の内にいるのである。

旧約聖書続編 知恵の書 3 : 1-3

19. Solus : Tenor I

Herr, wenn ich nur dich habe,
so frage ich nichts nach Himmel und Erden.

19. 独唱 (テノールI)

主よ、もし私があなただのみを所有するならば、
それならば天と地には何も気にかけることがない。

旧約聖書 詩編 73 : 25

20. Soli : Alt, Tenor I/II, Baß

Wenn mir gleich Leib und Seele verschmachtet,
so bist du, Gott,
allzeit meines Herzens Trost
und mein Teil.

20. 重唱 (アルト、テノールI/II、バス)

たとえ私の肉体と魂が弱っても、
あなたは、神よ、
いつも我が心の慰めであり
私が受け継ぐ賜物。

旧約聖書 詩編 73 : 26

21. Capella

Er ist das Heil und selig Licht
für die Heiden,
zu erleuchten, die dich kennen nicht,
und zu weiden.
Er ist seines Volks Israel
der Preis, Ehr, Freud und Wonne.

21. 合唱

彼の救いと幸いなる光は
異邦人のためにあり、
照らす光は、あなたを知らない者にまで及んで
養いになられます。
彼は、その民イスラエルの
栄光、誉れ、喜びと楽しみであります。

Mit Fried und Freud ich fahr dahin=平安と喜びもてわれは行く 第4節
Martin Luther=マルティン・ルター 1524年

22. Soli : Baß I/II

Unser Leben währet siebenzig Jahr,
und wenn's hoch kömmt,
so sind's achtzig Jahr,
und wenn es köstlich gewesen ist,
so ist es Müh' und Arbeit gewesen.

22. 重唱 (バスI/II)

我らの人生は70年続くか、
あるいは高齢であっても、
それは80年である。
そして人生は愉快であったとしても、
それは苦勞と労働であった。

旧約聖書 詩編 90 : 10a

23. Capella

Ach, wie elend ist unser Zeit
allhier auf dieser Erden,
gar bald der Mensch darniederleit,
wir müssen alle sterben,
allhier in diesem Jammertal
ist Müh' und Arbeit überall,
auch wenn dir's wohlgelinget.

23. 合唱

ああ、何と惨めな我らの時でしょうか、
ここ、この地上では。
人間はまことに早く病み衰えて
我らは皆、死なねばなりません。
ここ、この嘆きの谷では
いたるところに苦勞と労働があるのです、
たとえ、おまえが幸いにも成功をおさめたとしても。

Ach wie elend ist unsre Zeit allhier auf dieser Erden=ああ、何と惨めなわれらの時 第1節
Johannes Gigas=ヨハネス・ギーガス 1566年

24. Solus: Tenor I

Ich weiß, daß mein Erlöser lebt,
und er wird mich hernach
aus der Erden auferwecken,
und werde danach
mit dieser meiner Haut umgeben werden,
und werde in meinem Fleisch Gott sehen.

24. 独唱 (テノールI)

私は知っている、私の贖い主は生きておられ、
そして彼は私をすぐに
地より甦らせ、
そして次に私は、
この私の皮膚で包まれ、
私の肉体によって神を見るであろう。

旧約聖書 ヨブ記 19 : 25-26

25. Capella

Weil du vom Tod erstanden bist,
werd ich im Grab nicht bleiben,
mein höchster Trost dein Auffahrt ist,
Todsurcht kannst du vertreiben,
denn wo du bist, da komm ich hin,
daß ich stets bei dir leb und bin,
drum fahr ich hin mit Freuden.

25. 合唱

あなたが死から甦られたので
私は墓には留まりません。
我が至高の慰めはあなたの御昇天であり、
死の恐れをあなたは追い払うことができになるのです。
なぜなら、あなたがおられるところ、そこへ私は行き、
私は常にあなたの傍らで生き、また在るのですから。
だから私は喜んで往くのです。

Wenn mein Stündlein vorhanden ist=我がいまわの時いざ来たらば 第4節
Nikolaus Herman=ニコラウス・ヘルマン 1560年

26. Soli: Sopran I/II, Alt, Tenor I/II, Baß
Herr, ich lasse dich nicht,
du segnest mich denn.

26. 重唱 (ソプラノ I/II、アルト、テノール I/II、バス)
主よ、私はあなたを放さない、
あなたが私を祝福してくださるのでなければ。

旧約聖書 創世記 32 : 27b

27. Capella

Er sprach zu mir: Halt dich an mich,
es soll dir itzt gelingen;
ich geb mich selber ganz für dich,
da will ich für dich ringen.
Den Tod verschlingt das Leben mein,
mein Unschuld trägt die Sünde dein;
da bist du selig worden.

27. 合唱

彼は私に言われた。私に頼りなさい、
今やおまえに成功が訪れよう。
私は自分自身のすべてをお前に与え、
それで私はお前のために労苦しよう。
死を我が生が飲み込み、
我が無垢がお前の罪を担うのだ。
だからお前は福者となったのだ。

Nun freut euch, lieben Christen gmein = いまぞ喜べ、汝らキリストのともがらよ 第 7 節
Martin Luther = マルティン・ルター 1523 年

II. Motette

Chor I/II

Herr, wenn ich nur dich habe,
so frage ich nichts nach Himmel und Erden.
Wenn mir gleich Leib und Seele verschmacht,
so bist du doch, Gott,
allezeit meines Herzen Trost
und mein Teil.

II. モテット

合唱 I/II

主よ、もし私があなたのみを所有するならば、
それならば天と地には何も気にかけることがない。
たとえ私の肉体と魂が弱っても、
あなたは、神よ、
いつも我が心の慰めであり
私が受け継ぐ賜物。

旧約聖書 詩編 73 : 25-26

III. Canticum Simeonis

III.シメオンの頌歌

Intonatio: Tenor I

Herr, nun lässest du deinen Diener

先唱 (テノールI)

主よ、今あなたはあなたのしもべを

Chorus I

in Frieden fahren,

wie du gesagt hast;

denn meine Augen haben deinen Heiland gesehen,

welchen du bereitet hast vor allen Völkern,

ein Licht, zu erleuchten die Heiden,

und zum Preis deines Volks Israel.

合唱 I

平安のうちに去らせてくださいます、

あなたがおっしゃったとおりに。

私の目があなたの下さった救い主を見たからです。

救い主をあなたは全ての国民のために備えられました。

彼は異邦人を照らす光であり、

あなたの民イスラエルの栄光なのです。

新約聖書 ルカによる福音書 2 : 29-32

Chorus II : Seraphim I/II,

Beata anima cum Seraphinis

Selig sind die Toten,

die in dem Herren sterben,

sie ruhen von ihrer Arbeit,

und ihre Werke folgen ihnen nach.

Sie sind in der Hand des Herren,

und keine Qual rühret sie.

Selig sind die Toten,

die in dem Herren sterben.

合唱 II (二人の天使と、

天使らと共にいる幸いなる魂)

幸いな死者である、

主にあつて死ぬ者は、

彼らはその労苦からのがれて休み、

その成した業で彼らは報われる。

彼らは主の御手の内にあり、

どんな苦痛も彼らを襲うことはない。

幸いな死者である、

主にあつて死ぬ者は、

新約聖書 ヨハネの黙示録 14 : 13からの抜粋
および旧約聖書 知恵の書 3 : 1の自由な短縮

対訳 水野克彦

演奏会の記録

	開催年月	主な演奏曲目	指揮	会場
第1回	1981.02	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	寺村博司	石橋メモリアル
第2回	1981.11	ヘンデル(メサイア)	渡辺央己	中央会館
第3回	1982.11	フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、シュッツ	鈴木 優	東京カテドラル
第4回	1983.09	モーツァルト (戴冠式ミサ)、ヴィクトリア	黒岩英臣	東京カテドラル
第5回	1984.09	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	黒岩英臣	東京カテドラル
第6回	1985.10	J.S.バッハ(カンタータ106)、ブクステフーデ、ハスラー	宮本昭嘉	石橋メモリアル
第7回	1986.10	モーツァルト(グローセミサ)、ヴィクトリア	鈴木 優	練馬文化センター
第8回	1987.10	シュッツ(ムジカリッシェ・エクゼクイエン)、ハスラー(ミサ・セクンダ)	鈴木 優	石橋メモリアル
第9回	1988.12	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、J.ハイドン	齋藤明生	駒場エミナース
第10回	1989.11	モーツァルト(レクイエム<バイヤー版>)	齋藤明生	練馬文化センター
春の小演奏会	1990.05	ジョスカン・デ・プレ(パンジェ・リングワ)、ハスラー	齋藤明生	石橋エオリアン
第11回	1991.02	モーツァルト(リタニア 243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ)	齋藤明生	石橋メモリアル
第12回	1991.11	モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)	齋藤明生	川口リリアホール
第13回	1992.11	シャルパンティエ(儀禮的ミサ)、シュッツ、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第14回	1993.11	モーツァルト(ミサ・プレヴィウス275)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
15周年記念	1994.11	モーツァルト(レクイエム<ドルース版>)渋谷混声と合同	齋藤明生	新宿文化センター
第15回	1995.10	J.S.バッハ(カンタータ 182)、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第16回	1996.11	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
第17回	1997.10	モーツァルト(ミサ・ソレムニス 337、テデウム・ラウダムス)	齋藤明生	石橋メモリアル
第18回	1998.10	J.S.バッハ(カンタータ 61・196)、D.スカルラッティ	齋藤明生	石橋メモリアル
第19回	1999.10	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン、ブルックナー	齋藤明生	石橋メモリアル
継続音	2000.07	ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス	水野克彦	同仁キリスト教会
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(アルゲル、海スルテ、ウイグ、ハズリナ)	水野克彦	旧上野奏楽堂
第20回	2001.11	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、J.ハイドン	水野克彦	石橋メモリアル
第21回	2002.10	ドイツ・パロック(J.C.F.バッハ、シュッツ、ブクステフーデ)	水野克彦	所沢文化センター
第22回	2003.11	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー	水野克彦	ルーテル市谷センター
第23回	2004.10	D.スカルラッティ、パレストリーナ、モンテヴェルディ	水野克彦	カトリック麻布教会
第24回	2005.11	シュッツ、テレマン、ブクステフーデ(カンタータ)	水野克彦	カトリック麻布教会
第25回	2006.11	レヒナー(ヨハネ受難曲)、ゼレンカ(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第26回	2007.10	ブクステフーデ(カンタータ 6曲)	水野克彦	カトリック麻布教会
第27回	2008.11	5人のヨーハン(J.S.バッハとその親戚 4人)	水野克彦	カトリック麻布教会
第28回	2009.10	メンデルスゾーン、J.ハイドン(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第29回	2010.11	シュッツ、シャイン、シャイト、ブクステフーデ、ブルーンス	水野克彦	同仁キリスト教会
第30回	2011.10	歴代「トーマス・カントル」のバッハ以外の名曲集	水野克彦	日暮里サニーホール
第31回	2012.10	シュッツ、ブクステフーデ(メンブラ・イエズ・ノストリ)	水野克彦	同仁キリスト教会
第32回	2013.12	16~17世紀のクリスマスと新年の名曲	水野克彦	同仁キリスト教会
第33回	2014.11	シュッツ(ムジカリッシェ・エクゼクイエンほか)	水野克彦	同仁キリスト教会
第34回	2015.11	J.S.バッハ(モテット第2番)、他(予定)	水野克彦	同仁キリスト教会

東京アマデウス合唱団のご案内 (2014.11 現在)

少人数に適したルネッサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い、隠れた名曲を歌ってみたい方が集まった合唱団です。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のバロックのアンサンブルと一緒に楽しみたい方や興味のある方は、下記をご参照下さい。

(事務局 大久保ルミ子)

来年の演奏会「第 34 回定期演奏会」

「日 時」 2015 年 11 月 3 日<火・祝>(予定)
「会 場」 同仁キリスト教会礼拝堂(予定)
「演奏曲目」 J.S バッハ モテット第 2 番、他(予定)

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>

見学ご希望の方へ(必ず、上記へメール又は下記へ電話でご連絡の上、お出で下さい)

お問い合わせ先 辻村 順子 048-476-4056
大久保ルミ子 03-3960-7714

練習日 毎週水曜日 午後 6 時半～9 時
練習場所 同仁キリスト教会美登里幼稚園 2F
指導者 水野克彦
会 費 月 額 5 千円(学生半額)
入会金 1 千円

この他に、楽譜代・定演参加費がかかります

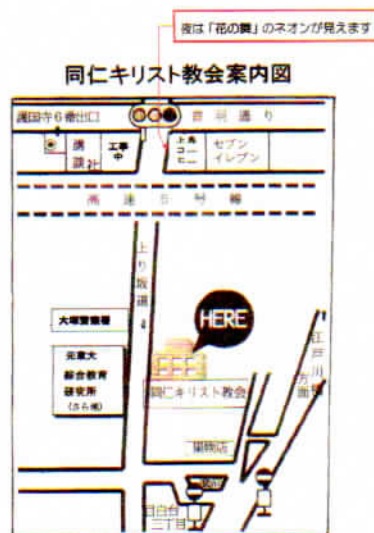
(練習場所への交通案内)右図参照

* 地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車 6 番出口から徒歩 5 分

* JR 山手線「目白」駅よりバスで

「目白台 3 丁目」下車 徒歩 3 分



* 地下鉄有楽町線「護国寺」下車 6番出口から徒歩5分
* JR山手線「目白」駅よりバスで「目白台3丁目」下車 徒歩3分

東京アマデウス合唱団

ソプラノⅠ 繁松 緑・辻村順子・中西亜紀子
ソプラノⅡ 黒田裕子・名阪雅美・平石幸枝
アルトⅠ 大友美佐・堀江和子
アルトⅡ 大久保ルミ子・大庭裕子
テノールⅠ 小沢 仁・片岡 繁
テノールⅡ 翁長良二・柿沼 哲
バスⅠ 大庭敏彦・中西宏年
バスⅡ 山村道男



同仁キリスト教会礼拝堂(2013.12.01)



Heinrich Schütz
(1585~1672)

Tokyo Amadeus Chorus

Since 1980